

平成21年度 学校自己評価シート (さいたま市立大宮西高等学校)

目指す学校像	確かな学力と豊かな人間性を育成して、自己実現を図る。
重点目標	1 生徒が学力の向上と定着を実感できる学習指導の充実 2 心身ともに健康でけじめある生活を送れる生徒の育成 3 生徒自ら進路を選択し、その実現に向けて努力する姿勢の確立 4 開かれた学校作りの推進（情報発信の充実と活用）

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						学校関係者評価	
年度目標				年度評価 (2月25日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	授業評価や公開授業を通して授業の工夫改善に取り組んでいる。生徒個々が進路実現を目標に努力を継続しており、家庭学習の時間が増えるなど、改善も見られている。学習習慣を一層向上させるための充実した指導の継続が求められる。	学力向上のための授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートを参考にした授業改善 教科主任連絡会を活用し学習指導方法の改善向上を図り学習意欲を高めていく。 授業の活性化と主体的な学習態度の育成 <ul style="list-style-type: none"> *チャイム着席、チャイム始業他 わかる授業の実践及び学び合いや共有化の推進(教科別・テーマ別研修等の活用) 教育課程の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲を持って主体的に授業に取り組む生徒が増えたか。(授業アンケート) 生徒の学力は向上したか。 授業研究や研修会の成果を授業の工夫、改善に生かしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒自身が学習課題を考えられるように授業アンケートを変えた。 ○授業への取り組み意識(意欲)は、1年生では昨年比10%上昇し、3年生でも増加傾向が見られた。 ○市立高校合同授業研究会などを通じて、他の市立校の先生方と意見交換ができた。 ○教科主任連絡会は2月下旬に開き、授業実施上の課題の共有化と年度当初から教科横断的な指導方針を協議した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの生徒は家庭学習の不足を自覚している。授業以外の学習時間の増加が今後の大きな課題である。 ○放課後の校内における自習スペースの確保が方策の一つとしてあげられる。 ○さらに授業研究が進み、結果を生かせるように、やり方を工夫する。○学習指導法の改善、生徒の学習意欲の向上を図っていく。
2	頭髪服装の指導や時間を守らせる指導などを継続している。挨拶など礼儀は良好であるが、制服の着こなし、授業態度等に改善を要する。けじめある生活態度を育てる指導の充実清掃等、学校環境の整備に改善が必要である。人間関係作りが経験が浅い傾向が強まっている。	豊かな人間関係作りと生徒指導の取組	<ul style="list-style-type: none"> けじめのある生活を送る指導の実施 <ul style="list-style-type: none"> *時間を守る遅刻指導 *規則を守る 気持ちよく学ぶ環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> *挨拶 *清掃 心身ともに健康な生徒育成の取り組み <ul style="list-style-type: none"> *家庭との連携による食育 *交通安全指導の充実 豊かな人間関係育成 <ul style="list-style-type: none"> *仲間づくりの指導を大切にする。 *国際感覚の育成をはかる。(国際交流事業) 学校行事・部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻数が減少したか。 問題行動が減少したか。(指導内容評価を伴う) 校内が美しく保たれているか。 生徒の心の健康について外部機関や保護者との連携を一層深める。 交通事故が減少したか。 学校行事や部活動は活性化したか。(部活動加入率と活動状況) 	<ul style="list-style-type: none"> ○遅刻指導を継続して実施し、遅刻を繰り返す生徒に改善の兆しが見られた。 ○生徒指導部は学年団と連携し情報を共有しながら、生徒の変化を見逃さずに、きめ細かく、継続して指導を行っている。そのため、特に頭髪でひどく目立つ生徒は減少した。生徒指導案件は少なかった。○環境の整備、清掃等に取り組み美化が進んだ。○スクールカウンセラー、養護教諭、担任とが連携し、生徒個々の問題に対応して精神的ケアに努めた。 ○入院などを伴う、大きな交通事故はなかったものの、軽微な「ひやり、はっと」事故は多く報告されている。 ○行事などを通して、人間関係作りの経験を積ませる中で、主体的に活動できるようになるなど成長が見られた。○短期留学生との交流は該当クラスを中心に積極的にできた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○まだまだ多い遅刻を減らすため、指導を継続していく。 ○チャイム着席を基本に、学習規律の改善を指導する。 ○清掃を徹底させ落ち着いた学習環境づくりを指導をしていく。 ○交通安全指導は保護者や地域と連携してねばり強く進める。 ○学校の教育活動全般で、生徒の人間関係作りが進むよう配慮していく。 ○メンタル面で問題を抱えている生徒の対応を保健室、カウンセラー等と連携してさらに進める。
3	進路行事をとおして進路意識は学年を追って向上している。そして、多くの生徒が進路実現に向け、よく考え準備している。しかし、進路準備の開始時期が多少遅れる生徒や進路先を安易に決めている生徒も一部見受けられる。3年間を見通した系統的な進路指導体制の確立が必要である。	満足できる進路先との実現に向けた指導の確立	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々に応じた進路意識の向上のための面談 進路行事・総学におけるガイダンスなどの活用 「進路の手引き」の編集や各種資料の整備等、有効で適切な進路情報の提供 大学・短大・専門学校・企業等との密接な連携 学習意欲を喚起し、学力向上を図るための補習・課題テスト・実力テスト等の実施 第一志望をあきらめない指導 埼玉大の見学や進路セミナーなど学年に応じた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 面談・進路行事等を通じて、生徒の進路意識を引き出すことができたか。 進路を考えるための正確な情報や機会を提供できたか。 ニート・フリーター対策は図れたか。 様々な生徒が志望する進路を選択できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1学年では埼玉大学訪問、進学用模擬試験全員受験等と日常の進路指導によって学習意欲や進路意識を引き出すことができた。2学年では秋のスタディサポートを実施できた。夏季進学セミナー、模擬試験、小論文補習等、きめ細かい説明と個別面談等の結果、昨年より参加者を大幅に増加させることができた。3学年は継続した指導により評定平均値の高い者が多くなり、実績も向上した。 ○受験情報の提供に努めた。○進路未決定者を中心に、ニート、フリーターをなくすようねばり強く面談等を行った。 ○志望する進路に応じて、個別の指導が行われた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○分野別、進路希望別、能力や意識の高い生徒などへの指導等、個別の指導、相談をきめ細かく行う必要がある。 ○1, 2年次に校外模試を増やして一般受験に対する意識を持たせるように図ること。1年は11月にスタディサポートを実施していないので、来年度は行い、さらに充実したものにしたい。
4	P T A ・地域等との連携が深まりつつある。HPの更新などが順調に進められている。今後より相互の理解を深めながら具体的な連携を実施することが求められる。	開かれた学校づくりの推進のための情報発信の充実と活用	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開の推進・充実 P T A 等との連携協力の推進とP T A 等の活動充実への支援 HP等各種方法による情報提供の充実 メール連絡網の活用メール連絡網の加入率アップ 他の校種との連携の企画 保護者や地域等の意見等の収集とその活用 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の情報は十分に伝えられたか。 各行事への保護者地域の参加が増えたか。 学校と保護者、地域が連携協力できたか。 保護者、地域等の学校への願いなどが把握できたか。(行事等のアンケート) メール連絡網の加入数と活用件数が増えたか 	<ul style="list-style-type: none"> ○こまめに情報を提供し保護者との連携を図った。 ○学校行事等への親の参加(見学)が増えている。 ○家庭と連携を図りながら毎日の体温測定・手洗いやうがい等の感染症対策に取り組んだ。○進路に関するアンケートを実施し、保護者のニーズを知ることができた。 ○HPは毎日更新できた。またアクセスは昨年並みで月平均5000であった。 ○メール連絡網への加入率が全校で95%になり、インフルエンザ流行時の緊急連絡網としても成果を上げた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○情報発信の充実。衛生面や保健面で保護者との連携を強める。 ○メール連絡網の活用方法をさらに工夫し、より保護者との連携を強めたい。 ○地域との連携を深めるよう工夫する。

学校関係者評価	実施日平成22年3月16日
学校関係者からの意見・要望・評価等	○生徒自身が授業アンケートにより振り返りや自己評価ができるように工夫していることは効果的である。 ○先生方の授業研究をさらに進めて、授業の充実を図ってほしい。 ○子供の学力向上は家庭学習と先生の指導が両輪となって実現されるものであるが家庭学習の定着が大切である。 ○遅刻の指導など、ねばり強く丁寧な指導をされている。 ○大学見学の機会などを通してより具体的に上級学校での学びや進路実現をイメージすることはとても良い。 ○メール連絡はとても効果的である。 ○中学生や保護者向けの情報発信がさらに充実することを望む

